

2023年度 文学部聴講生
講義要項
(ドイツ語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E1301	ドイツ語文学文化	ドイツ文学史(1)	犬飼 彩乃	前期	月	3時限	3
E1302	ドイツ語文学文化	ドイツ文学史(2)	犬飼 彩乃	後期	月	3時限	5
E1303	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義	藤縄 康弘	前期	金	2時限	8
E1304	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義	林 明子	前期	水	3時限	10
E1305	ドイツ語文学文化	現代ドイツ事情(1)/現代ドイツ事情(1)(3)	紀 愛子	前期	金	2時限	13
E1306	ドイツ語文学文化	現代ドイツ事情(2)/現代ドイツ事情(2)(4)	紀 愛子	後期	金	2時限	16
E1307	ドイツ語文学文化	ドイツ社会誌(1)(3)	磯部 裕幸	前期	金	3時限	19
E1308	ドイツ語文学文化	ドイツ社会誌(2)(4)	磯部 裕幸	後期	金	3時限	22
E1309	ドイツ語文学文化	ドイツ文学講義(1)(3)	田中 一嘉	前期	木	3時限	24
E1310	ドイツ語文学文化	ドイツ文学講義(2)(4)	田中 一嘉	後期	木	3時限	26
E1311	ドイツ語文学文化	ドイツ思想(1)/ドイツ思想史(1)	縄田 雄二	前期	月	2時限	28
E1312	ドイツ語文学文化	ドイツ思想(2)/ドイツ思想史(2)	縄田 雄二	後期	月	2時限	30
E1313	ドイツ語文学文化	ドイツ文化講義(1)(3)/ドイツ文化講義(1)(3)(5)	高橋 慎也	前期	月	4時限	33
E1314	ドイツ語文学文化	ドイツ文化講義(2)(4)/ドイツ文化講義(2)(4)(6)	高橋 慎也	後期	月	4時限	36
E1315	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅰ(2)(4):演習	藤縄 康弘	後期	金	2時限	39
E1316	ドイツ語文学文化	ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習	林 明子	後期	水	3時限	41

科目名: ドイツ文学史(1)

担当教員: 犬飼 彩乃

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C103

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:27 更新者: XEC308

更新日時: 2023-01-09 16:39:40

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

中世から現代までのドイツ語で書かれた文学の歴史を学びます。文学を取り巻く政治・社会・文化の状況にも目を配りつつ、それぞれの時代の文学の潮流と主要な作家・作品について解説します。文学作品の抜粋を講読し、作品に関連する音楽や映画なども随時取り上げます。

科目目的

この科目は、中世から現代にいたるまでのドイツ文学史の基礎知識を習得することを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ文学史の展開についての基礎的な知識を身につけること。
- ・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を習得すること。
- ・ドイツ語文学に関連する音楽や映画などについての知識を広げること。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 中世の叙事詩: 『トリスタン』『ニーベルンゲンの歌』
- 第3回: 近世の文学①: 人文主義、活版印刷術、ルターによる聖書のドイツ語訳
- 第4回: 近世の文学②: マイスターザング、宗教劇、謝肉祭劇
- 第5回: 18世紀ドイツの文学理論、市民劇
小レポート①講評
- 第6回: 感傷主義、シュトゥルム・ウント・ドラング
- 第7回: ゲーテとシラー、ドイツ・ジャコバン派
- 第8回: ロマン主義とその周辺
- 第9回: 三月前期の文学、リアリズム
- 第10回: 自然主義、「世紀末」の文学
小レポート②講評
- 第11回: 表現主義、ダダイズム
- 第12回: ナチ政権下の文学、亡命文学
- 第13回: 1945年以降の文学
- 第14回: 東西ドイツ再統一と現代の文学

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んだ上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 0%

- 平常点 50% 授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。
その他 50% 小レポート（計3回）：授業で扱ったドイツ文学史についての基礎知識を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価します。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。また、授業中に小レポートの講評を行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
柴田翔（編著）『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2003年 *各自購入してください。

上記以外の文献は、授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく3回以上欠席した場合には、不合格とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

科目名: ドイツ文学史(2)

担当教員: 犬飼 彩乃

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C104

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:28 更新者: XEC308

更新日時: 2023-02-12 18:52:35

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

「ドイツ文学史(1)」で扱った中世から現代までのドイツ文学史の概要を踏まえつつ、ドイツ語文学作品を講読します。その際には、文学テキスト分析の方法についても併せて学びます。授業で主に取り上げるのは近現代の作品ですが、中世から近世までの文学・文化も、近現代における受容という観点から適宜扱います。

科目目的

この科目は、作品の読解を通じて、ドイツ文学史の知識を深めると共に、文学テキスト分析についての基礎的な知識を身につけることを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ文学史の展開についての知識を深めること。
- ・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を深めること。
- ・文学テキスト分析についての基礎的な知識を習得すること。

授業計画と内容

- 第1回: 導入
- 第2回: 参考文献・事典
テキスト、パラテキスト
- 第3回: グリム兄弟『子供と家庭のためのメルヒェン集』
編纂、翻訳と受容
- 第4回: ヨーゼフ・フォン・アイヒェンドルフ「のらくら者の生活より」
語りと形式、語り手と焦点化
- 第5回: フランツ・カフカ「あるアカデミーへの報告」
擬人化、イロニー
- 第6回: イルゼ・アイヒンガー「鏡物語」
プロットとストーリー
- 第7回: アルノ・シュミット「ボカホンタスのいる湖景」
時間、記憶と意識
- 第8回: 小括
- 第9回: ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ「ミニヨン」「ローマ悲歌」
詩脚、詩行、詩節
- 第10回: フーゲー・フォン・ホーフマンスタール「無常について」
詩脚、詩行、詩節
- 第11回: パウル・ツェラン「死のフーガ」
比喩
- 第12回: ゴットホルト・エフライム・レッシング『エミーリア・ガロッティ』
場所、時間、筋
- 第13回: ベルトルト・ブレヒト『肝っ玉おっ母とその子どもたち』
舞台と観客
- 第14回: 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んで上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	授業で扱ったドイツ文学と文学テキスト分析の方法についての基礎知識を理解し、ドイツ文学作品を論じることができるかどうかを評価します。
平常点	50%	授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
- ・柴田翔（編著）『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2003年

上記以外の文献は、授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく3回以上欠席した場合には、不合格とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

科目名: ドイツ語学 I (1)(3):講義

担当教員: 藤縄 康弘

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C201,LE-LG2-C2

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:31 更新者: AC7671

更新日時: 2023-01-08 17:00:11

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

言葉はコミュニケーションの手段であるとともに、歴史的・文化的遺産とも見なされる。この講義では、ドイツ語の根本的な仕組みを学習しながら、実用と教養の両方にバランスの取れた見識を養う。

科目目的

- ・ドイツ語の具体的な文法事象(そこには日本語にも英語にも見られないものがある)を歴史や文化との関連で体系的に把握する
- ・そうした体系性がいかにコミュニケーションに作用しているかを理解し、この認識を語学力の上達や異文化理解に生かす姿勢を身につける

到達目標

- ・CEFR B1 程度のドイツ語読解力を身につけている
- ・このレベルの読解力を支える文法事項について十分な説明が行える

授業計画と内容

1. 導入: ドイツ語の歴史的・国際的・地域的背景
2. 音韻 (1): 母音、子音と音節
3. 音韻 (2): アクセント
4. 文法 (1): 語形変化の特色
5. 文法 (2): 品詞分類
6. 文法 (3): 文の構造
7. 確認テスト 1、中間まとめ
8. 文法 (4): 語順
9. 文法 (5): 時制
10. 文法 (6): 格
11. 文法 (7): 態
12. 文法 (8): 語彙と造語法
13. 名詞の性と数
14. 確認テスト 2、総まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	20%	既習事項の要点を抑えているかどうかを確認する。
期末試験	0%	
レポート	20%	授業での学習成果をもとに自らドイツ語のテキストを読解・分析し、その結果を適切な日本語で説明できるかどうかを確かめる。
平常点	60%	授業中の質問や発言、コメントシート、課題への取り組みなど。

通常の努力をもって受講しているかどうかを確認する。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

※欠席が開講回数の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・履習にあたり、初級ドイツ語の文法知識や読解力は必要であるが、それ以上の専門的知識は要求しない。
- ・本授業は、後期開設の「ドイツ語学I (2) (4) : 演習」の前提となる授業である。
- ・本授業に加えて、「ドイツ語学II (1) (3) : 講義」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

担当教員の HP:
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/fujinawa/>

備考

科目名：ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義**担当教員：林 明子**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：2年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-C203,LE-LG2-C2

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:31 更新者：AA0530

更新日時：2023-01-06 11:30:56

履修条件・関連科目等

- * 本授業は、後期開設の「ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習」の前提となる授業である。
- * 本授業に加えて、「ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義」も合わせて受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、特に、広義の応用言語学(語用論・社会言語学・テキスト言語学など)を中心に、言語研究の多様なアプローチとそこで用いられる基本的な概念・分析方法について、身近な具体例を通して学びます。今学期は「言語と社会」に関する事項を取り上げ、異なる言語もしくは言語変種の接触についても考えます。「講義」科目ではありますが、受け身で話を聞いていても理解は深まりません。実際に言語を分析してみることが重要です。そこで、授業中の活動には、分析課題とそれを受けての質疑応答も取り入れます。

科目目的

言語学分野の基礎知識と多様な方法論を知ることによって、言語学はもちろん、文学・文化学・演劇学・歴史学・美術／芸術などの他分野にあっても、言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付けます。言語学分野を専門としようとする履修者にとっては、近い将来、自分自身で組み立てる調査、そのためのデータ収集・分析にあたって、自分の道具となってくれる専門用語や方法論を整理・発見する一助となります。

到達目標

「言語学」という学問分野で繰り広げられるアプローチの多様性を知り、基礎的な知識と「ことば」をめぐる様々な観点、研究方法を知ること为目标とします。然るべき方法論に則って、言語事実を客観的かつ正確に観察・分析するプロセスを学びます。それを通して言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付けます。

授業計画と内容

- * 履修者の関心に応じて内容を変更する場合があります。

- (1) オリエンテーション：言語研究の諸分野と多様なアプローチ
- (2) 言語行動とその社会的側面
- (3) 社会言語学とは何か
- (4) 地域方言と社会方言
- (5) 顕在的権威／潜在的権威と仲間意識
- (6) アコモデーション理論、フォリナートーク、コミュニケーション・ストラテジー
- (7) 相互行為(インタラクション)①：フレームとスキーマ
- (8) 相互行為(インタラクション)②：ポライトネスと「フェイス」
- (9) スタイル
- (10) 言語接触
- (11) 多言語併用(Multilingualism, Bilingualism)とは
- (12) コード・スイッチング
- (13) 多言語併用のいろいろ
- (14) 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、自分自身の分析に応用できるだけの能力を身につけたかどうかを評価の対象とします。
レポート	0%	
平常点	30%	授業中の活動や授業内容を受けて出す提出課題を通して、基礎的な知識や方法論を身に付けたかどうか、分析課題にどう取り組んだかを評価します。授業内の「小さな気づき」も重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進めます。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<参考文献>

窪菌晴夫編著 (2019) 『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房
グロジャン、フランソワ (著)、西山教行 (監訳)、石丸久美子・大山万容・杉山香織 (訳) (2018) 『バイリンガルの世界へようこそ 複数の言語を話すということ』勁草書房
真田信治ほか著 (1993) 『社会言語学』おうふう
真田信治編 (2006) 『社会言語学の展望』くろしお出版
トラッドギル、P. 著、土田滋訳 (1975) 『言語と社会』岩波新書
橋内武 (1999) 『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版
山本雅代編著、井狩幸男・田浦秀幸・難波和彦著 (2014) 『バイリンガリズム入門』大修館書店
Van Herk, Gerard (2018) What Is Sociolinguistics? Second Edition. Willey Blackwell.

<辞典/事典類>

*専門の辞典類は、専門用語を中心に予・復習の役に立ちます。

亀井孝他編著 (1996) 『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂
小池生夫編集主幹 (2003) 『応用言語学事典』研究社
斎藤純男・田口義久・西村義樹編 (2015) 『明解言語学辞典』三省堂

ドイツ言語学辞典編集委員会編（編集主幹：川島淳夫）（1994）『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店屋書店

*その他、参考文献は授業の中で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

連絡方法：オフィスアワーを含め、まずはメールでご連絡ください。メールアドレスは、授業開始後、履修者にお知らせします。

参考URL

備考

科目名： 現代ドイツ事情(1)／現代ドイツ事情(1)(3)

担当教員： 紀 愛子

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 1～3年次配当

科目ナンバー： LE-DT1-C501

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:32 更新者： AD1420

更新日時： 2023-01-05 22:49:57

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、ナチ時代の負の過去に対して戦後ドイツがどのように向き合ってきたのかという、いわゆる「過去の克服」の問題について、特に①戦後裁判、②戦後補償、この2つの観点から検討する。
第二次世界大戦敗戦後、ドイツが国際社会に復帰し、諸外国との外交関係を回復していくにあたっては、ナチ時代の犯罪に対する対応が不可欠であった。現在のドイツを取り巻く国際関係を考える上でも、「過去の克服」の具体的な展開を知ることは重要な手助けとなる。
本講義では特に、ナチ犯罪に関わった者たちをどのように裁くかという戦後裁判の問題、犯罪の犠牲者たちが被った被害をどのように償うかという戦後補償の問題に焦点を当て、「過去の克服」の一側面を提示するとともに、国家犯罪をめぐる「責任」や「償い」の問題について考えたい。

科目目的

ナチ犯罪をめぐる裁判や戦後補償など、「過去の克服」についての知識を得る。
講義を通して、ナチズムの過去や戦後ドイツ史、「過去の克服」に関心のある人に、卒業論文のテーマを見つける手がかりを提示したい。

到達目標

戦後のドイツにおいて、ナチ・ドイツの過去とそれに対する取り組みがどのような重要性を持っているのかを理解する。
戦後ドイツ史についての基礎知識を身につける。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：ナチ時代の差別と迫害①：ナチの独裁体制とホロコースト
- 第3回：ナチ時代の差別と迫害②：ホロコースト以外のナチ犯罪
- 第4回：「非ナチ化」政策
- 第5回：ナチ犯罪をめぐる戦後裁判一導入、ニュルンベルク裁判
- 第6回：アイヒマン裁判とアウシュビッツ裁判
- 第7回：戦後裁判のまとめと次回映画の導入【オンデマンドでの実施】
- 第8回：映像で考えるナチ犯罪の裁き①：裁判に関する映画視聴（前半）
- 第9回：映像で考えるナチ犯罪の裁き②：裁判に関する映画視聴（後半）と考察
- 第10回：ドイツの戦後補償① ユダヤ人に対する補償
- 第11回：ドイツの戦後補償② 強制労働被害者、シンティ・ロマへの補償
- 第12回：ドイツの戦後補償③ 強断種被害者、「安楽死」犠牲者遺族への補償 & 戦後補償のまとめ【オンデマンドでの実施】
- 第13回：東ドイツとナチズムの過去【オンデマンドでの実施】
- 第14回：まとめと理解度の確認【オンデマンドでの実施】

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回、授業内容に関する参考文献を示すため、自身が特に興味関心を持った内容については積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。この学修が、期末レポート執筆の基礎となる。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートを提出する。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、③主体的・積極的に学びを深めたかどうか、この三点からレポート内容を評価する。
平常点	40%	対面授業においては、毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。 オンデマンド授業においては、manabaを通じてコメントを提出してもらう。この内容を評価し、平常点として加算する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、

- ① 対面授業10回のうち、7回以上出席し、さらに
- ② オンデマンド授業4回のうち、3回以上コメントを提出することを、成績評価の前提条件として求める。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト（教科書）は使用しない。
参考文献は授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 現代ドイツ事情(2)／現代ドイツ事情(2)(4)

担当教員： 紀 愛子

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 1～3年次配当

科目ナンバー： LE-DT1-C502

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:32 更新者： AD1420

更新日時： 2023-01-05 22:55:06

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、ホロコーストという過去が戦後ドイツにおいてどのように認識され、その記憶が継承されてきたのかを検討する。現在のドイツでは、ホロコーストに関する歴史教育や、犠牲者のための追悼記念碑建設などが積極的に行われている。ナチ時代の負の歴史に関するこうした取り組みは、ドイツでは「想起の文化」と呼ばれる。本講義では「想起の文化」の中でも特に、①歴史教育、②歴史研究、③記念碑・記念館の建設事業、この三つに焦点を当てて、ホロコーストの記憶継承のためにどのような営みが行われているのかを検討する。

科目目的

ホロコーストをめぐる歴史教育や歴史研究、記念碑・記念館事業の具体的な展開についての知識を得る。講義を通して、ホロコースト認識や歴史教育、負の記憶の継承といったテーマに関心がある人に、卒業論文のテーマを見つける手がかりを提示したい。

到達目標

ドイツの「想起の文化」を理解する。そこからさらに発展して、自国の負の歴史と向き合うとはどのようなことか、そこにはどのような障壁や課題があるのかを、ドイツのケースを一つの事例としながら考察できるようになることが目標である。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：前提として—ホロコーストとは
- 第3回：ホロコーストをめぐる歴史教育
- 第4回：国際教科書対話
- 第5回：ホロコースト研究の展開と歴史修正主義【オンデマンド授業】
- 第6回：修正主義を考える①：映像で考える修正主義（前半）
- 第7回：修正主義を考える②：映像で考える修正主義（後半）
- 第8回：ホロコーストの表象—映画、芸術
- 第9回：東ドイツの記憶と想起【オンデマンド授業】
- 第10回：ドイツにおける記念碑の発展
- 第11回：ホロコーストをめぐる記念碑
- 第12回：ユダヤ人以外の犠牲者のための記念碑
- 第13回：「過去との取り組み」をめぐる日独比較の視点【オンデマンド授業】
- 第14回：まとめと理解度の確認【オンデマンド授業】

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業で参考文献を提示するので、特に関心を持ったテーマについては、積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。この学修が、期末レポート執筆の基礎となる。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業内容からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、 ③積極的・主体的に学びを深めているか、この三点からレポートを評価する。
平常点	40%	対面授業においては、毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。 オンデマンド授業においては、manabaを通じてコメントを提出してもらい、この内容を評価して平常点に加算する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、

- ① 対面授業10回のうち、7回以上出席し、さらに
- ② オンデマンド授業4回のうち、3回以上コメントを提出することを、成績評価の前提条件として求める。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト（教科書）は使用しない。
参考文献は授業のなかで適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：ドイツ社会誌(1)(3)

担当教員：磯部 裕幸

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：金3

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-DT1-C503,LE-DT1-C5

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:32 更新者：AA2034

更新日時：2023-01-09 14:14:22

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

授業テーマ：「主権国家の克服？：国際連盟と国際連合の歴史」

本授業では、世界平和の実現を目指してつくられた二つの国際機関、すなわち国際連盟と国際連合の歩みを概観することで、20世紀の歴史をグローバルな視野から理解することを目指す。

今日、世界各地で領土紛争や内戦または貧困といった問題が発生しているが、それが一国の政府の手に負えなくなった場合、国連をはじめとする国際機関が関与することが多い。そうした意味で、国際問題の解決のために、国連は各主権国家の枠組みを超えて行動すべきだという考え方は、21世紀を生きる我々にとってそれほど異質なものではないといえよう。

しかしそうした考え方は、例えば19世紀においては今日ほど「自明」ではなかった。それでは今日の国連が体現している思想は、いつ、いかに形成されたのか。そして、その実現のためにどのような試みが行なわれ、そしてどのような挫折を経験したのか。この授業では国際連合の歴史を、特にそれが直面した国際紛争や国際問題に着目しながら、その前身の国際連盟時代と合わせて概観していくことにしたい。そしてそのことは、20世紀の歴史をいわゆる「一国史」の枠組みではなく、グローバルな視点から理解する一助となるであろう。

科目目的

本科目は、ドイツを含む近世・近代のヨーロッパ内外の歴史を概観しながら、主権国家間の対立・協力・相互交流の関係がどのように展開されたのかを考察することが目的である。

人文・社会科学の研究において、対象地域を歴史的に理解することは、どのような分野であれ必須である。従って本科目の履修は、将来卒業論文や卒業研究を執筆するにあたって有益な視座を与えてくれるに違いない。

到達目標

本科目では、主に歴史学研究の手法や方法論を学び、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

授業予定

(変更の可能性あり)

- 第1回 導入「戦争の「合法化」／「非合法化」：第一次世界大戦までの状況
- 第2回 国際連盟の成立とその仕組み (1) 戦間期の国際関係
- 第3回 国際連盟の成立とその仕組み (2) 「大国」間の協調と対立
- 第4回 国際連盟の苦悩 (1) 植民地問題
- 第5回 国際連盟の苦悩 (2) 第二次世界大戦と国際連合の成立
- 第6回 国際連合と戦後世界 (1) 冷戦下の国連
- 第7回 国際連合と戦後世界 (2) 国連と「第三世界」
- 第8回 国際連合と戦後世界 (3) 国連と文化活動
- 第9回 冷戦後の国連 (1) 安保理改革をめぐる攻防
- 第10回 冷戦後の国連 (2) テロと貧困との戦い
- 第11回 「国際主義とは何か？」 (1) 「国際主義」と「主権国家体制」
(入江昭「国際主義の系譜」145-148頁)
- 第12回 「国際主義とは何か？」 (2) さまざまな「国際主義」の可能性
(入江昭「国際主義の系譜」149-150頁)
- 第13回 「国際主義とは何か？」 (3) 国際関係における「文化」の役割
(入江昭「国際主義の系譜」151-154頁)
- 第14回 まとめ・到達度確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100% 出席は取らない。期末試験(到達度確認)の成績のみで評価する。
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

第11～13回目授業では、以下のテキストを扱うので履修者は必ず事前に読んでおくこと。テキストは授業担当者がPDFファイル形式で準備、manabaにアップロードする。

入江昭「国際主義の系譜」(『比較法学』(早稲田大学)29-2(1996年)145-154頁)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：ドイツ社会誌(2)(4)

担当教員：磯部 裕幸

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：金3

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-DT1-C504,LE-DT1-C5

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:32 更新者：AA2034

更新日時：2023-01-09 17:20:49

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

テーマ：歴史における『転換点』—「出来事」と「構造」で学ぶドイツ近現代史
 近現代ドイツの歴史においては、しばしば政治体制や社会構造の大規模な転換を伴う出来事が起こった。歴史を学ぶ際には、そうした「出来事(事件)」の経過についての正しい知識が不可欠であることは言うまでもない。しかし同時にその「出来事」の背景や後の時代に与えた影響関係を知ること大切である。本授業では、ナポレオン期からナチズムに至るまでの、ドイツ史における「転換点」を取り上げ、その経緯を確認するとともに、その出来事によって何が、どのように変わったのかを考える。そうした作業を通じてドイツ近現代史の基本事項を学び、あわせて「変化の学」であり「構造の学」でもある歴史学の方法論についても考究することとしたい。

科目目的

本科目は、ドイツの近現代史を学びながら、歴史研究における「出来事」と「(社会)構造」との関係について考察するものである。
 人文・社会科学の研究において、書かれたテキストを正確に理解し、自ら新たな問いを発するという事は、どのような分野であれ重要である。従って本科目の履修は、将来卒業論文や卒業研究を執筆するにあたって有益な視座を与えてくれるに違いない。

到達目標

本科目では、主にドイツ近現代史を学ぶことによって、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

- 授業予定
 (変更の可能性あり)
- 第1回 導入：「出来事」vs「構造」—歴史学の方法論をめぐって
 - 第2回 「1807年」：ナポレオン戦争とプロイセン改革(1)—ドイツにおける分断状況
 - 第3回 「1807年」：ナポレオン戦争とプロイセン改革(2)—シュタインとハルデンベルク
 - 第4回 「1848年」：ウィーン体制の崩壊とフランクフルト国民議会
 - 第5回 「1871年」：ビスマルクとドイツ帝国の成立(1)—プロイセンとオーストリアの対立
 - 第6回 「1871年」：ビスマルクとドイツ帝国の成立(2)—「鉄血政策」の光と影
 - 第7回 「1918/19年」：第一次世界大戦と帝政の崩壊(1)—ヴィルヘルム2世の「世界政策」
 - 第8回 「1929年」：世界恐慌とワイマール共和国の終焉(1)—「内憂外患」の共和政
 - 第9回 「1929年」：世界恐慌とワイマール共和国の終焉(2)—「共和国の危機」とナチズムの台頭
 - 第10回 「1933年」：ナチ体制の成立(1)—「ナチズム」とは何か?
 - 第11回 「1933年」：ナチ体制の成立(2)—ヒトラー政権誕生までの道のり
 - 第12回 「1933年」：ナチ体制の成立(3)—現実化した「悪夢」
 - 第13回 「1939年」：第二次世界大戦の勃発とその後の世界
 - 第14回 まとめ：到達度確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100% 出席は取らない。期末試験（到達度確認）の成績のみで評価する
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に定めない。授業用プリントを配布する。適宜授業にて参考文献を紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：ドイツ文学講義(1)(3)**担当教員：田中 一嘉**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：木3

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-LT1-C507,LE-LT1-C50

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:32 更新者：AC9346

更新日時：2023-01-08 12:00:26

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品には様々な登場人物が描かれていますが、本講義ではその中でも女性の登場人物につ焦点を当てて作品解釈を進めていきます。この授業で扱う作品は、ドイツ語圏を中心としつつも、古代から現代に至る時間軸およびヨーロッパ全体の地理的広がり意識して選定しています。
女性の登場人物がいわゆるヒロインなのか主人公なのか、あるいは脇役か。物語全体にとってどのような位置付けにあるかを、当時の女性観やジェンダー論などの観点を踏まえながら分析していきます。
適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

- ・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
- ・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：神話伝説における女神
- 第3回：ホメロス『オデュッセイア』①カリュブソー、キルケー
- 第4回：ホメロス『オデュッセイア』②ペーネロペー、ナウシカア
- 第5回：ゲルマン神話・伝説：ブリュンヒルデ
- 第6回：『ニーベルンゲンの歌』①クリエムヒルト
- 第7回：『ニーベルンゲンの歌』②ブリュンヒルト
- 第8回：アーサー王関連物語①クレチアン・ド・トロワ『ランスロ』王妃ギネヴィーア
- 第9回：アーサー王関連物語②ハルトマン・フォン・アウエ『エーレク』エーニーテ
- 第10回：ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク『トリスタン』イゾルデ
- 第11回：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』ロッテ
- 第12回：ジェイン・オースティン『自負と偏見』
- 第13回：ジョルジュ・サンド『愛の妖精』
- 第14回：総括、期末レポートに向けて

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめてもらいますので、随時テキストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 50% 期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。

平常点	50%	毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。 授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを評価 基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジュメや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくても構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名: ドイツ文学講義(2)(4)

担当教員: 田中 一嘉

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C508,LE-LT1-C51

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:33 更新者: AC9346

更新日時: 2023-01-08 12:00:04

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品の題材には様々な歴史的事象が用いられています。ただし、文学作品は「歴史書」とは違い、歴史的事実とは異なる出来事や人物が挿入されたり、その反対に重要な出来事の経過が省かれたり改変されたり、などなど、無数のフィクション(虚構)的要素が織り込まれ、ひとつの芸術作品として仕上がっています。そのような文学作品が、自らの素材として歴史的事実を扱う意味・意義、そして歴史をそのまま伝えるのではなく、「物語」として描き出すことの意味・意義を考えていきます。扱う作品は古代から中世を中心に、近代以降の作品も含める予定です。また適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

- ・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
- ・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回: オリエンテーション
- 第2回: 古代ギリシア文学より: ホメロス『イーリアス』①叙事文学とは何か
- 第3回: ホメロス『イーリアス』②トロイア戦争の発端
- 第4回: 古代ローマ文学より: ウェルギリウス: 『アエネーイス』 ローマ建国伝説
- 第5回: アレクサンドロス大王伝説
- 第6回: 『ローランの歌』 カール大帝、レコンキスタ・十字軍
- 第7回: 『ニーベルンゲンの歌』① ゲルマン民族大移動
- 第8回: 『ニーベルンゲンの歌』② ジークフリートは実在したか?
- 第9回: アーサー王と円卓の騎士たちは実在したか?
- 第10回: 中世ファウスト伝説とゲーテの『ファウスト』
- 第11回: ゲーテ『若きウェルテルの悩み』: 「体験詩」作家の人生と文学作品
- 第12回: シラー『ヴァレンシュタイン』 三十年戦争
- 第13回: シラー『オルレアンの少女』 英仏百年戦争とジャンヌ・ダルク
- 第14回: 総括、現代の英雄像とは何か

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

前回授業の内容を復習して、授業全体の流れを確認してください。
また、期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめてもらいますので、随時テキストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	50%	期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。
平常点	50%	毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。 授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを判断基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジュメや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名: ドイツ思想(1) / ドイツ思想史(1)

担当教員: 縄田 雄二

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C511

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:33 更新者: AA9825

更新日時: 2023-01-30 14:29:52

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

<ドイツ語圏の言語哲学>

動物の鳴き声との比較も含めて人間の言語を考察したヘルダーの『言語起源論』(1772年)、ドイツ語母語話者と日本語母語話者がドイツ語で交わしたという体裁のハイデッガーの対話篇『言葉についての対話』(1958年)を、日本語訳で読む(原著は二冊ともドイツ語である)。

科目目的

- ・ドイツ語圏を代表する哲学者たちの著作を読み上げること。哲学書を読む経験をつくること。
- ・言語哲学に触れること。人間のことは動物のことはどう違うのか、人間の言語はいかに生まれたのか、人類がさまざまな言語を持っていることにはいかなる意味があるのか、といった問題についての考えを深めること。

到達目標

- ・自力で哲学書が読めるようになること。
- ・言語とは何かについて、各自の考えを育てること。その考えがヘルダーやハイデッガーに反していてもよい。

授業計画と内容

- 1 導入
- 2 ヘルダー『言語起源論』第一部第一章
- 3 同第二章
- 4 同第三章
- 5 同第二部第一自然法則
- 6 同第二自然法則
- 7 同第三自然法則
- 8 同第四自然法則
- 9 ハイデッガー『言葉についての対話』冒頭-24ページ
- 10 同24-51ページ
- 11 同51-74ページ
- 12 同74-108ページ
- 13 同108ページ-末尾
- 14 総括と到達度確認

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

課題図書該当箇所を授業後にあらためて読んでいただきたい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 50% 学期末に試験をおこない、学期全体の授業にしっかりと取り組めたかを評価する。

レポート	0%
平常点	50% responなどにより、その回ごとの授業にしっかりと取り組めたかを簡単に評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- テキスト
- ・ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー『言語起源論』(講談社学術文庫)
- ・マルティン・ハイデッガー『言葉についての対話 日本人と問う人とのあいだの』(平凡社ライブラリー)

オフィスアワー

その他特記事項

- ・授業中に教員と学生がコミュニケーションできる無料アプリresponを用いる。manaba経由でスマートフォンにダウンロードしておいていただきたい。
- ・質問は以下いずれの方法でもよるこんで受けつける。(1) 授業中手を挙げる (2) 授業のおわりにresponでコメントを寄せる際に書き込む (3) manabaの個人指導コレクションを用いる

参考URL

備考

科目名：ドイツ思想(2)／ドイツ思想史(2)**担当教員： 縄田 雄二**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-DT1-C512

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:33 更新者：AA9825

更新日時：2023-01-01 11:01:56

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ドイツ語圏におけるキリスト教思想のいくつかの頂点を論ずる。1) 新約聖書の一書、ルターが重視したパウロのローマ書簡(紀元1世紀)を前置き読み、2) 中世カトリックの神秘主義の例としてヒルデガルト・フォン・ビンゲンの幻視図(12世紀)をくわしく観、3) ルターの著作(16世紀)により宗教改革とプロテスタンティズムを理解し、4) ニーチェによるキリスト教の否定(19世紀)で結ぶ。

科目目的

- ・ドイツ語圏の宗教思想史の12世紀から19世紀にわたる広い部分を視野におさめる
- ・ヨーロッパの根幹にあるキリスト教とそれへの批判について考えを深める

到達目標

課題図書やリンク先の絵画は、ながい時間を超え、読まれ、観られてきて、これからも読まれ、観られつづけるであろう古典である。数十年後、みなさんが歳をとったときに、「大学時代にはこの本を読んだな、あの絵を観たな、大切なものに取り組んだな」と振り返れるような授業を目指す。これは、知的な本を自ら読む習慣をみなさんが身につけることにもつながる。読書を楽しむ者になっていただきたい。

授業計画と内容

1. 導入
2. パウロ『ローマ書』1-5章
3. パウロ『ローマ書』6-10章
4. パウロ『ローマ書』11-16章
5. ヒルデガルト導入、Hildegard: Scivias, Tafel 1-11
6. Hildegard: Scivias, Tafel 12-35
7. ルター「キリスト者の自由」
8. ルター「新訳聖書への序言」
9. ルター「聖パウロのローマ人にあてた手紙への序言」
10. ルター「詩篇への序言」(以上ルター『キリスト者の自由・聖書への序言』所収)
11. ニーチェ『この人を見よ』冒頭-83ページ
12. ニーチェ『この人を見よ』84-200ページ
13. ニーチェ『この人を見よ』201-219ページ
14. 総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・授業内容はmanabaのコンテンツ欄に文章として載せるので、授業後にざっと読み返し、理解を深めていただきたい。
- ・ローマ書、ルター、ニーチェは、授業で解説したあと、次回の授業までに、解説した部分を読んでいただきたい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 50% 学期末に試験をおこない、学期全体の授業にしっかりと取り組めたかを評価する。

レポート	0%
平常点	50% responなどにより、その回ごとの授業にしっかりと取り組めたかを簡単に評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

以下がテキストである。3) 4) を購入していただきたい。とりくみかたは授業内で指示する。

- 1) 千葉恵「パウロ『ローマ書』の構成と試訳(二〇〇八年六月改訂版)」
<http://hdl.handle.net/2115/33953>
 (このURL上で公開。改訂される前の版は『北海道大学文学研究科紀要』120号(2006年)1-43ページ所収)
- 2) Benediktinerinnenabtei Sankt Hildegardのウェブサイト上の>Scivias<
<https://www.abtei-st-hildegard.de/die-scivias-miniaturen/>
- 3) ルター『キリスト者の自由・聖書への序言』岩波文庫
- 4) ニーチェ『この人を見よ』光文社古典新訳文庫

オフィスアワー

その他特記事項

- ・授業中に教員と学生がコミュニケーションできる無料アプリresponを用いる。manaba経由でスマートフォンにダウンロードしておいていただきたい。
- ・質問は以下いずれの方法でもよろこんで受けつける。(1) 授業中手を挙げる (2) 授業の終わりにresponでコメントを寄せる際に書き込む (3) manabaの個人指導コレクションを用いる

参考URL

備考

科目名: ドイツ文化講義(1)(3) / ドイツ文化講義(1)(3)(5)

担当教員: 高橋 慎也

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C513, LE-DT1-C5

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:33 更新者: AA9015

更新日時: 2023-01-15 18:17:53

履修条件・関連科目等

特になし

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ドイツ語圏の著名な演出家・振付家の演出法分析①

現代の舞台芸術ではセリフ、身体表現、舞台音楽、舞台装置、舞台衣装、舞台照明などの構成要素を総合的に用いる演出法が一般的です。演劇学の分野でも、こうした「総合芸術作品 (Gesamtkunstwerk)」としての舞台作品の演出法を分析する理論と方法が模索されています。「舞台作品の諸構成要素を隠喩的 (メタファー) に統合して表現するのか、換喩的 (メトニミー) 拡散して表現するのか」という問いは演出の際の要点です。たとえば「伏線をどのように張って回収するのか」あるいは「本来の筋とは無関係なシーンをどのくらい挿入するのか」という問が挙げられます。また20世紀初頭から、舞台と観客席の間の境界 (いわゆる「第四の壁」) を越える演出法が提唱されています。さらに観客を舞台に巻き込む演出法の開拓だけでなく、舞台作品から自立して独自に解釈する「解放された観客」 (ジャック・ランシエールの観客論) を重視する観客論も提案されています。

本講義では、ドイツ語圏の著名な演出家・振付家による舞台作品のシーン分析を通して、それぞれの演出法の特徴について解説します。また比較の対象として日本の著名な演出家・振付家の演出法についても解説します。その際に、演劇学の一般的な分析方法に従って視覚的要素と聴覚的要素に分けながら解説します。授業時間が限られているので、分析対象となるシーンは冒頭部、転換部、最終部ど一部の重要なシーンに絞ります。

本講義で取り上げるドイツ・ヨーロッパの演出家による舞台作品には社会批判的要素が多く表現されています。他方、日本の演出家の舞台作品の中には舞台空間を「霊の住む空間」として、消えてゆく音やノイズを霊の声として、さらに舞台作品を死者への哀悼・鎮魂の供儀として提示する側面があります。こうした演出意図と演出法の相違を生む背景としては、演出家や観客の演劇観に留まらず、宗教観や死生観が関係していると捉えることができます。本授業では何名かの演出家の演劇観、宗教観についても解説します。

世阿弥作 / サシャ・ヴァルツ振付 / 細川俊夫作曲のオペラ『松風』、平田オリザ作・演出 / 細川俊夫作曲のオペラ『静かな海』、岡田利規作・演出『地面と床』や『NO THEATER』は現代能として演出され、ドイツ・ヨーロッパでも注目を集めました。またエウリピデス作 / 蜷川幸雄演出のギリシャ悲劇『王女メディア』は歌舞伎との融合によって、宮城總演出のものは人形浄瑠璃との融合によって欧米でも高い評価を得ました。こうした演出法は日欧演劇のハイブリッド化の手法として肯定的に捉えられます。他方、ポストコロナ理論の観点から見ればこの種の舞台は、「宗主国の舞台芸術の補強」につながるオリエンタリズムないしジャポニズムの例として批判的に捉えることもできます。本授業では、舞台芸術を解釈する視点を複数提示しながら受講生の考察を促してゆきます。

科目目的

- ドイツ語圏の舞台芸術の演出法に関する基礎的知識を修得する
- ドイツ演劇学の基礎的概念を修得する
- 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違について考察を深める

到達目標

- ドイツ語圏の舞台芸術の演出法に関するレポートを執筆できる
- ドイツ演劇学の基礎的概念に関するレポートを執筆できる
- 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違についてレポートを執筆できる

授業計画と内容

- 1) 授業紹介と舞台作品紹介
- 2) 世阿弥作 / サシャ・ヴァルツ振付 / 細川俊夫作曲のオペラ『松風』の演出法
- 3) 平田オリザ作・演出 / 細川俊夫作曲のオペラ『静かな海』の演出法
- 4) 凶ハヤエル・クンツェ作 / ハリー・クプファー演出のミュージカル『エリザベート』の演出法
- 5) 田池修一郎演出のミュージカル『エリザベート』の演出法
- 6) これまでの授業の補足説明と舞台作品紹介
- 7) 田ウリピデス作 / ハイナー・ミュラー演出の『マクベス』と蜷川幸雄演出の『NINAGAWA・マクベス』の演出法
- 8) 田ウリピデス作 / パゾリーニ監督映画と宮城總演出のギリシャ悲劇『王女メディア』の演出法
- 9) 田ウリピデス作 / ミヒャエル・タールハイマー演出の『エミーリア・ガロッティ』の演出法
- 10) 田ウリピデス作 / トーマス・オスターマイヤー演出『ノラ 人形の家』、『民衆の敵』の演出法
- 11) 演出分析と上演分析の理論と方法、観客論
- 12) 田ウリピデス作 / ハイナー・ミュラー演出と白井晃演出の『アルトゥロ・ウイの興隆』の演出法
- 13) 岡田利規作・演出の『地面と床』、ヴォーカロイドオペラ『The End』の演出法
- 14) 授業全体のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 設問に対応した解答の達成度
レポート	30% ショートレポートの課題に対する記述内容の充実度
平常点	20% 授業課題全体に対する授業態度
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

本授業で取り上げる戯曲、上演ビデオ、脚本、演出家インタビュー、劇評などの教材はGoole Driveから視聴可能とする。印刷教材は著作権の許す範囲でダウンロード可とする。

参考文献：

- 1) ハンス＝ティース・レーマン著『ポストドラマ演劇』 同学社
- 2) エリカ・フィッシャー＝リヒテ著：『演劇学へのいざない』 国書刊行会

オフィスアワー

その他特記事項

4回以上欠席した場合の成績は不可となります。

参考URL

備考

科目名: ドイツ文化講義(2)(4) / ドイツ文化講義(2)(4)(6)

担当教員: 高橋 慎也

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C514, LE-DT1-C5

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:33 更新者: AA9015

更新日時: 2023-01-15 18:21:46

履修条件・関連科目等

特になし

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ドイツ語圏の著名な演出家・振付家の演出法分析②

前期に引き続き、ドイツ語圏の著名なロックバンド・演出家・振付家による舞台作品のシーン分析を通して、それぞれの演出法の特徴について解説します。また比較の対象として日本の著名な演出家・振付家の演出法についても解説します。後期の授業では前衛的な舞台、いわゆるアヴァンギャルド演劇ないしはポストドラマ演劇の代表的な演出家の舞台について解説します。

現代のアヴァンギャルド演劇やコンテンポラリーダンスに特徴的な傾向として、生身の身体の日常的な表現能力を超える可能性の追求があります。ロボット演劇、アンドロイド演劇、ヴォーカロイド演劇はその典型例です。これらは現代版の人形劇という側面を持ち、ロボット・アンドロイド・ヴォーカロイドは作品によっては霊の依代という機能を与えられています。ドイツのテクノポップバンド「クラフトワーク」のロボットパフォーマンスはコンテンポラリーダンスにも影響を与えています。ロバート・ウィルソン演出のアヴァンギャルド・ミュージカル『The Black Rider』では俳優がゾンビとして登場し、悪魔の支配下に「死の舞踏」(Totentanz)を喜劇的かつ悲劇的に踊ります。

ウィルソンとの親交も厚かったハイナー・ミュラーが演出した『カルテット』では、冥界から呼び覚まされた男女が『愛の死』の可能性を巡って熱く冷たいバトルを繰り広げます。

マルターラーの音楽劇では出口の無い舞台空間が設定され、その中で生き延びてゆくしかない現代人の哀歌をコミカルかつメランコリックに奏でていきます。

仕事盛りの40代後半に癌宣告を受けたシュリンゲンジーフは、晩年のふたつの舞台で複数の空間を同時に舞台上に設定する演出法を駆使しながら現世空間と来世空間を構築し、来世の人々との対話の可能性を探っています。

シュテーターマン演出の『ウルリケ・マリア・ステュアート』ではドイツ赤軍の女性テロリスト二人がイングランド王国のエリザベス1世とメリー・スチュワートと重なりながらバトルを続け、男性に声を奪われて死に追いやられた女性の立場から男性支配の歴史を批判的に検証しています。アイナー・シュレーフ演出の『スポーツ劇』ではギリシャ悲劇の原型である合唱隊の機能を現代に回復すべく、数十人の俳優集団が舞台上で30分におわたって激しい運動を続け力尽きていきます。

戦後ドイツでは振付家・ダンサーのピナ・バウシュを中心として、演劇とダンスがハイブリッド化して統合されたタンツテアターという舞台芸術のジャンルが形成されました。その継承者であるサシャ・ヴァルツは、後年のバウシュ同様に身体と環境との関係性を問うパフォーマンス作品を創造しています。『身体』はその代表作のひとつです。

以上のように後期の授業では、日常的な身体や日常の世界を超越する身体と時空間を舞台上に構築しようとした演出家・振付家を中心にしながら、その演出法について解説します。併せて、ポストドラマ演劇に分類される舞台作品を分析する際に用いられる基本概念についても解説します。

科目目的

-
- ドイツ語圏の舞台芸術の上演史に関する基礎的知識を修得する
- ドイツ演劇学の基礎的概念を修得する
- 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違について考察を深める

到達目標

-
- ドイツ語圏の舞台芸術の演出法に関するレポートを執筆できる
- ドイツ演劇学の基礎的概念に関するレポートを執筆できる
- 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違についてレポートを執筆できる

授業計画と内容

- 1) 授業紹介と教材作品紹介
- 2) 団クノポップバンド「クラフトワーク」のロボットパフォーマンス『人間解体』 Der Mensch-Maschine、勅使河原三郎振付のロボットパフォーマンス『夜の思想』、山口小夜子演出の現代巫女舞『影向』(ようごう)の演出方法
- 3) 団イリアム・パロウズ作/ロバート・ウィルソン演出のアヴァンギャルド・ミュージカル『The Black Rider』の演出法
- 4) 団イナー・ミュラー作・演出の『カルテット』(原作はラクロ作『危険な関係』)の演出方法
- 5) 団リストフ・マルターラー演出の『ヨーロッパ人をやつける』、『巨大なるブツパッハ村』の演出法
- 6) 団リストフ・シュリンゲンジーフ演出の『オーストリアを愛して』(記録映画タイトルは『外国人は出て行け』)の演出法
- 7) 団リストフ・シュリンゲンジーフ演出の『私の中の異物に対する不安の教会』、『Mea Culpa』の演出法
- 8) 以上までの授業の補足説明と教材作品紹介
- 9) 団ストドラマ演劇の基本概念: 境界性、二背反性、ハイブリッド性、パフォーマンス性、アフターパフォーマンス性
- 10) 団エリネク作/ニコラス・シュテーターマン演出の『ウルリケ・マリア・ステュアート』の演出法

- 11) 団エリネク作／アイナー・シュレーフ演出の『スポーツ劇』の演出法
- 12) 団ナ・パウシュ振付『カフェ・ミュラー』・『春の祭典』の演出法
- 13) 団シャ・ヴァルツ振付『身体』の演出法
- 14) 授業全体のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 設問に対応した解答の達成度
レポート	30% ショートレポートの課題に対する記述内容の充実度
平常点	20% 授業課題全体に対する授業態度
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

必要に応じてコピーをmanaba上で提示ないし配布する

参考文献：

- 1) ハンス＝ティース・レーマン著『ポストドラマ演劇』 同学社
- 2) エリカ・フィッシャー＝リヒテ著：『演劇学へのいざない』 国書刊行会

オフィスアワー

その他特記事項

4回以上欠席した場合の成績は不可となります。

参考URL

備考

科目名: ドイツ語学 I (2)(4):演習

担当教員: 藤縄 康弘

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C853,LE-LG2-C8

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:38 更新者: AC7671

更新日時: 2023-01-08 17:03:07

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

- (1) ドイツ語の物語文を日本語に翻訳する実習を行います。
- (2) 受講者は、毎回、指定された範囲をあらかじめ日本語に「翻訳」し(つまり、単なる直訳ではなく、日本語として自然に読める文章表現を工夫し)、提出してください(提出方法の詳細は授業で指示)。
- (3) 授業時間では、解釈の難しかったところを中心に内容を確認するだけでなく、提出された和訳に基づきながら翻訳のポイントとなる諸点について議論します。
- (4) 授業後は各自、自分の翻訳を見直し、再度提出してもらいます。
- (5) 翻訳そのもののほか、作品解釈についても考察します。

科目目的

- ・ドイツ語のテキスト(文章)の構成や表現としてのまとまりを言語学的な視点から分析する手法を身につける
- ・ドイツ語のテキスト(文章)の構成上の特色を知ること、自身のドイツ語および日本語による表現力の向上につなげる姿勢を身につける

到達目標

科目目的を参照

授業計画と内容

1. オリエンテーション
2. 線状性と文章の構成
3. 主題の選択 - 理論編
4. 主題の選択 - 第三者的語りの場合
5. 主題の選択 - 体験的語りの場合
6. 態のはたらき - 理論編
7. 態のはたらき - 第三者的語りの場合
8. 態のはたらき - 体験的語りの場合
9. 時制のはたらき - 理論編
10. 時制のはたらき - 第三者的語りの場合
11. 時制のはたらき - 体験的語りの場合
12. 間接話法 - 理論編
13. 間接話法 - 第三者的語りの場合
14. 間接話法 - 体験的語りの場合

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

概要 (2)(4) 参照。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	20% 概要 (5) 参照
平常点	40% 概要 (2) (3) 参照
その他	40% 翻訳成果：概要 (4) 参照

成績評価の方法・基準(備考)

※欠席が開講回数¹の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する

オフィスアワー

その他特記事項

・本授業に加えて、「ドイツ語学II (2) (4)：演習」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

担当教員の HP:
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/fujinawa/>

備考

科目名：ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習**担当教員：林 明子**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-C855,LE-LG2-C8

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:38 更新者：AA0530

更新日時：2023-01-09 14:21:29

履修条件・関連科目等

- (1) 本授業は、今年度前期開設の「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」が履修済みであることを前提としている。但し、前年度までの「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」を履修済み、あるいは「ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義」「ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習」を含む言語学分野の授業履修を通して言語学の基礎を十分身につけた学生は、後期のみの履修でも差し支えない。
- (2) 本授業に加えて「ドイツ語学Ⅰ(2)(4):演習」も合わせて受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

言語学の魅力の一つとして、言語事実の観察・分析を通して、背景にある社会や文化に客観的に迫ることがあげられます。授業では、前期「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」で得た知識を活用しながら、社会言語学という分野を通して、より具体的にその一端に触れることを試みます。

授業では、ドイツ語で書かれた入門書から „Mehrsprachigkeit und Sprachkontakt (多言語併用と言語接触)“ の章を取り上げます。ドイツ語で専門分野の入門書を読むことで、専門用語や方法論についての知識を深め、実例については分析も体験します。いずれの場合も、予習にあたって、音読することを強く推奨します。また、テキスト全体の構造を意識した読みを心がけ、語・句・文のレベルでは文法規則を踏まえるよう指導します。「分析しながら読む」練習です。進捗状況によっては、言語変種についての章も扱います。

科目目的

具体的な言語資料の分析結果に基づいて、言語の構造や機能について考察する能力を養うことが目的です。将来、どの分野で卒業論文や卒業研究を執筆することになっても、言語事実を観察・分析することによって、背景にある社会や文化に客観的に迫れる力を身に付けることを目指しています。

到達目標

本授業では、前期に引き続き、社会言語学分野（特に多言語併用）に焦点を当てます。ドイツ社会における多言語併用／マルチリンガリズムは、移民問題とも関連し、従来とは異なる側面から議論されます。前期に日本語で学習した専門用語や概念について、ドイツ語を媒介語として確認すると同時に、ドイツ語で書かれた導入文献の講読（分析しながら読む）を通して、専門書を読むためのストラテジーも身に付けます。

授業計画と内容

* 受講生のドイツ語力や授業の進捗状況等に鑑み、予定したテーマや進度を変更する可能性もある。

- (1) オリエンテーション：予復習の仕方と導入文献（言語学分野）の読みの指導
- (2) 導入：多言語による地名
- (3) 多言語併用と言語接触
- (4) 多言語併用と少数言語
- (5) 多言語併用と移住／移民
- (6) バイリンガリズムとダイグロシア
- (7) ピジンとクリオール
- (8) 言語干渉の分析
- (9) 言語政策
- (10) 言語行為と社会行為
- (11) 共通語・専門語・集団語
- (12) 標準語（全国共通語）・俗語・方言
- (13) 言語変種間の関連性
- (14) 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	日本語でもドイツ語でも、当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、論文形式の文章の中で正確に用いることができるか、また基本的な概念や方法論を実際のデータ分析に応用できるようになったかを評価の対象とします。
平常点	40%	ドイツ語テキストの予習・復習・発表を通じた課題への取り組み、授業への貢献度を評価します。「今日のひとつこと」などを通じた授業内の「小さな気づき」も重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- * 原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- * 課題等に対する授業中のコメント内容は、期末レポートやその後の学びに反映させてください。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進めます。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>

- * 授業用のハンドアウトを用意します。

<参考文献>

Bergmann, R. Pauly, P., Stricker, S. (2005) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Vierte Auflage. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.
Bergmann, R. Pauly, P., Stricker, S. (2010) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Fünfte Auflage. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.
Bußmann H. (Hrsg.) (2008) Lexikon der Sprachwissenschaft. Stuttgart: Alfred Kröner Verlag.

グロジャン、フランソワ（著）、西山教行（監訳）、石丸久美子・大山万容・杉山香織（訳）（2018）『バイリンガルの世界へようこそ 複数の言語を話すということ』勁草書房
トラッドギル、P. 著、土田滋訳（1975）『言語と社会』岩波新書
山本雅代編著、井狩幸男・田浦秀幸・難波和彦著（2014）『バイリンガリズム入門』大修館書店
Van Herk, Gerard (2018) What Is Sociolinguistics? Second Edition. Willey Blackwell.

<辞典／事典類>

*ドイツ語を講読する際には、独和辞典だけでは不十分です。

亀井孝他編著（1996）『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂

斎藤純男・田口善久・西村義樹編（2015）『明解言語学辞典』三省堂

ドイツ言語学辞典編集委員会編（編集主幹：川島淳夫）（1994）『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店

*その他、参考文献は授業の中で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

どの回でもドイツ語の具体例の詳細な分析を扱います。また、テキストのトップダウンの読みは、それ自体がテキスト分析を伴う作業です。能動的かつ積極的な授業態度が求められ、「聞いているだけ」の時間はありません。

* 連絡方法：オフィスアワーを含め、まずはメールでご連絡ください。メールアドレスは、授業開始後、履修者にお知らせします。

参考URL

備考
